

平成 21 年 5 月 21 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成 18 年度～平成 20 年度

課題番号：18520127

研究課題名（和文）『炭俵』『別座敷』の分析による「かるみ」の研究

研究課題名（英文）A STUDY OF “KARUMI” IN SUMIDAWARA AND BETSUZASHIKI

研究代表者

佐藤 勝明（SATO KATSUAKI）

和洋女子大学 言語・文学系 教授

研究者番号：60255172

研究成果の概要：後述の通り、当初予定していた、(1)『炭俵』『別座敷』の入集者調査と作品の分析、(2)元禄前後の俳書に関する調査、(3)「かるみ」と同時期の蕉門外の俳諧に対する着目について、それぞれ成果を上げることができた。(1)は、なお不十分な面を残しつつも、連句分析に新しい評価軸を導入できたことが大きく、今後の作品分析に応用できると考えている。(2)は、「元禄時代俳人大観」の完成が間近に迫るようになった。(3)も、今回は一作品の分析にとどまるものの、具体的に未注釈文献に取り組んだことにより、当該作品の性格がよく知られるようになった。また、地方俳諧との比較を通して「かるみ」の本質を考えるという、新たな視点を得られたことも、大きな収穫といえる。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,600,000	0	1,600,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	540,000	3,940,000

研究分野：

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：近世文学

## 1. 研究開始当初の背景

(1) この研究課題を設定した背景には、芭蕉の俳諧を理解する上で欠くことのできない「かるみ」に関する研究が、現在は活発でないという事実がある。また、これまでに行われてきた「かるみ」の研究に、客観性をやや欠く面があったということも、この課題に取り組む一つの前提となっている。

(2) この研究組織のメンバーは、元禄期の俳書に関する悉皆的な調査をはじめており、また、『古典俳文学大系』（集英社）のCD-

ROM版作成にも参画するなど、俳書・俳人と作品に関するデータを整えつつあった。

(3) 上記の二つを結びつけることで、「かるみ」研究の新局面が拓けるという展望をもち、この研究課題を設定したわけである。

## 2. 研究の目的

(1) 何よりも「かるみ」研究を客観的なものに行なうべきだと考えた。そのため、対象をしぼることとし、「かるみ」を具現するといわれる『炭俵』『別座敷』を、入集者

と作品の双方から追究し、その特色を明らかにしていくことをめざした。

(2) その前提として、元禄前後の俳壇状況をいねいに把握することを目的に加え、俳書に関する悉皆的調査を継続・推進することにした。

(3) 蕉門の俳諧がもつ特色をはっきり浮かび上がらせるためには、蕉門以外の作品や人的交流に関する把握が必要であると考え、いくつかの作品分析をも試みることにした。

### 3. 研究の方法

(1) 『炭俵』『別座敷』の入集者に関しては、その俳諧履歴を調査し、入集一覧表を作る。同時に、所収される連句を取り上げ、新しい視点を加えた注釈を試みる。

(2) 元禄前後の俳書に関する悉皆的な調査を推し進め、とくに入集者の一覧を作る。そのために調査旅行を行うなどして、俳書についての情報を広く集める。

(3) 芭蕉が「かるみ」を唱えたころの俳壇全体の動きに着目し、とくに地方で編まれた俳書を検討対象に加える。

### 4. 研究成果

(1) 予定通り、『炭俵』『別座敷』に入集する俳人たちの入集状況一覧を作成した。これにより、「かるみ」を支えた人々の具体的な動向がほぼ明らかになった。また、『炭俵』からは「むめがゝに」歌仙、『別座敷』からは「紫陽花や」歌仙を取り上げ、付合のダイナミズムという点に着目して注釈を行った。これらは、下記の図書に収めてある。

(2) この研究以前から着手していた「元禄時代俳人大観」(『近世文芸研究と評論』誌に連載中)の作業を継続し、この3年の間にも、6回の掲載を行った。これについては、全体をまとめ直す計画であり、その作業にも入っている。

(3) 調査旅行によって関心をもつにいたった、三原地方の『備後砂』という俳書を取り上げ、その巻頭歌仙の注釈を行った。これにより、芭蕉たちの「かるみ」を同時期の地方の俳諧と比較することの有効性に、確信をもつようになった。これは、下記の雑誌論文として発表し、下記の図書にも再録した。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計21件)

佐藤勝明、「「古人」の名の詠み方 - 芭蕉句「世にふるも」の意図をめぐって -」、『連歌俳諧研究』111、p11 - 21、2006年、査読有

佐藤勝明・伊藤善隆・越後敬子・金子俊之・大城悦子、「『備後砂』「春の日に」歌仙評釈

付・三原市立中央図書館の俳書について」、『近世文芸研究と評論』75、p60 - 78、2008年、査読無

雲英末雄・伊藤善隆・二又淳、「翻刻『好春自筆句帖』」、『早稲田大学図書館紀要』56、p43 - 97、2009年、査読無

〔学会発表〕(計2件)

佐藤勝明、「『詠諧暑題林』の紹介と考察 - 芭蕉没後の「かるみ」を考える -」、俳文学会第60回全国大会、2008年10月12日、金沢市文化ホール

〔図書〕(計3件)

佐藤勝明他、「『炭俵』『別座敷』の分析による「かるみ」の研究」、佐藤勝明研究室、2009年、全166ページ

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕とくになし

### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 勝明(SATOU KATSUAKI)

和洋女子大学 言語・文学系 教授

研究者番号：60255172

(2) 研究分担者

雲英 末雄(KIRA SUEO)

早稲田大学 文学学術院 教授(死去前)

研究者番号：70046572

2008年10月死去

伊藤 善隆(ITOU YOSHITAKA)

湘北短期大学 総合ビジネス学科 准教授

研究者番号：30287940

(3) 連携研究者

神作 研一(KANSAKU KENICHI)

金城学院大学 文学部 教授

研究者番号：30267893

藤沢 毅(FUJISAWA TAKESHI)

尾道大学 芸術文化学部 教授

研究者番号：20289268